序

骨折を上手に治すためには多くのハードルがあります．手術に限っても，骨折型の立体的な把握，適切な手術アプローチ（surgical approach）の選択と実行，最適な内固定材料の選択，観血的あるいは非観血的な整復，正確な固定手技，直視下あるいは透視下での評価，確実で無理のない閉創などです．このうち，初心者にとって，一番の悩みどころは手術アプローチではないかと思っています．他の問題は，比較的容易に座学で学べたり，初心者というよりはむしろ上級者の悩みであったりするからです．羊土社さんから，骨折手術に関して新しい企画を打診された時に，真っ先に思いついたのは手術アプローチにフォーカスした書籍でした．

Stanley Hoppenfeld と Piet de Boer による Surgical Exposures in Orthopaedics：The Anatomic Approach の原著初版が発刊されたのは 1984 年です．私が研修医になった 1987 年当時，この名著と解剖書と On the Job Training による先輩からの温かい指導によって，整形外科手術アプローチを勉強するのが王道でした．研修医２年目に，カラーアトラス四肢の手術解剖（Neil Rushton, Robert A. Greatorex, Nigel S. Broughton/著，廣谷速人/訳，南江堂）という書籍をたまたま見つけて購入しました．このアトラスはすでに絶版になっていると思いますが，手術アプローチに沿って新鮮死体の解剖カラー写真とそのスケッチが横に並べられ，そこに最小限の説明文が付されており，とてもわかりやすいものでした．

術中所見のスケッチやシェーマは，不要な情報をそぎ落とすことで，本質をわかりやすく私たちに伝えてくれます．一方で，実際の手術では，雑音となる多くの解剖学的構造から，重要な解剖学的構造を見つけ出していかなければなりません．そのため，術中写真とシェーマを横に並べて勉強する方法は，手術アプローチを勉強するのにとても実践的で有用です．もちろん，今日の骨折治療では，整復やインプラントの設置を直視下に行うだけでなく，透視下に行う場合も少なくありません．そのような手術でもどの部位の皮膚を切って，骨のどの部分を露出させて，どういう具合にインプラントを設置するのかというのは重要です．展開の範囲が小さいだけで，やはり手術アプローチは重要なのです．

これらのことをふまえて，術中写真を豊富に掲載しつつ，それに対応したシェーマを並べて手術アプローチにフォーカスした骨折治療の書籍というのが本書のコンセプトです．新進気鋭からベテランまで執筆者の先生には，多くの写真を提供していただきました．本当にありがとうございました．心から感謝いたします．複数の症例の写真を用いて，１つの手術アプローチを解説している場合があります．この時，左右が混在すると読者に混乱を生じます．そこで，本書では，執筆者から提供していただいた画像を時に反転して用い，できるだけ左右の混乱をなくすよう工夫しています．

面白い実用的な書籍になったかなと思っています．若い先生の皆さん，本書を手に取りしっかりイメージトレーニングして，自信をもって手術室へ向かってください．そして，よい手術をしてください！

2024 年 1 月

帝京大学医学部整形外科学講座 教授
帝京大学医学部附属病院 外傷センター長
渡部欣忍